

社会福祉法人ぶどうの木

## 2021年度事業報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

### I 概況

前年度に引き続き2021年度も新型コロナウイルスへの対策を行いながら事業を進めました。開館時間の変更や来館者の制限、リモートワークの導入などを柔軟に取り入れながら、感染の予防と拡大防止に努め、本年度も職員・ボランティアなど関係者に感染者を一人も出すことなく、1年を通して従来通りの図書館サービスを維持することができました。

もはや「ニューノーマル」という言葉すら下火となった現在、過去にとらわれることなく、時代の変化にしっかりと対応して組織の維持と発展を目指すことが点字図書館においても求められており、ロゴス点字図書館も例外ではありません。この1年を通して、新時代に向けて積み上げた着実な成果を、以下にご報告いたします。

### II 重点施策

#### 1. 自動点訳ソフトを活用した点字図書製作体制の強化

今後さらなる促進が見込まれるデジタル化社会の流れを踏まえ、自動点訳ソフトの活用可能性を広げ、点字図書製作の基盤強化を図りました。

まず、日本語点訳の変換精度を向上させるため、PDFなどの元データから書式やレイアウトなどのメタ情報を取り除いたプレーンなテキストデータを作成し、その上で自動点訳後の修正が極力少なくなるためのテキストデータの補正ポイントを整理しました。

上記の効果を検証するため、本年度の「ロゴスの文化教室」で紹介された参考図書を、書籍のPDFデータから自動点訳ソフトを用いて製作しました。その結果、着手から完成までにかかる期間を大幅に短縮できることが確認できました。

今後は、テキストデータ製作の手順の整理を進めるとともに、作業を担える人材の確保・育成に努めます。またテキストデータの製作には、テキストデザイナーの製作フローと共通する部分が多いので、両方で共通化できる工程を精査し、図書製作業務の全体最適化にも繋げていきます。

## 2. 再生機の貸出・利用案内によるデイジー図書利用促進

録音図書については音声デイジーが広く一般に普及し、くわえてカセットテープの資材調達及び製作機材の維持が困難になってきたことを背景に、これまでカセットテープを中心に読書をされていた利用者を対象に、デイジー図書の魅力や利便性を積極的にアピールし、デイジー図書の利用促進を図りました。

当館で複数台準備した再生専用機を無償で貸出し、利用方法や活用のヒントを利用者向け新刊案内「ロゴスのほん箱」で紹介しました。この結果、1名の方に対して機器の貸出を行いデイジー図書への利用の切り替えが実現したほか、機器の貸出を希望されない方に対してもレファレンスの際にご案内を進め、デイジー図書への移行について一定の理解が得られました。さらに、スマートフォンによるデイジー読書の方法の紹介を通して、サピエ図書館の登録に繋がった事例もありました。その他、これまで郵送のみ行ってきた「ロゴスのほん箱」のデイジーデータを当館ホームページからダウンロードできるようにし、利用者の利便性にも配慮しながらデイジー図書の普及に努めました。

この成果を踏まえ、次年度からはカセットテープによる新規図書の製作を完全に終了し、録音図書をデイジー図書に集約していきます。なお、再生機の貸出や利用案内、デイジー図書を再生できるスマートフォンアプリの紹介は、今後も継続して行います。

## 3. 将来を見据えた業務改革の推進

環境変化のスピードが速い現状に適応していくため、業務の内容、進め方、役割を見直し、現在の職員の能力や適性が最大限発揮され、かつ多様化する利用者サービスに柔軟に対応できるよう業務改革を推進しました。

作業の見直しでは、図書の貸出・返却の管理でこれまで利用していた紙のノートを廃止し、デジタル化の移行を進めました。また、重複したり過度に工数のかかっていた作業工程を各所で洗い出し、作業工程の改善を図りました。

環境の見直しでは、同時に両面印刷できる高速点字プリンタの導入のほか、図書のバーコード読み取りやラベル製作に必要な機材を最新のものに入れ替えたり、非常勤職員用のパソコンを新たに追加で導入したり、クラウドサービスを用いて柔軟に情報を共有できる仕組みを構築したりするなど、ソフト・ハードの両面で改善を行いました。

また上記の取り組みを継続的に行うことで、より働きやすい環境や仕事の進め方について職員が主体的に考え、創意工夫を重ね、必要なら積極的に提案するという新たな組織風土の醸成にも繋がる好循環が生まれています。

館内データベースの改修、外注や新たな業務システムの導入、高速インターネット回線への切り替えなどについては、次年度以降順次対応を進めていきます。

収益事業のない点字図書館事業において多額の費用がかかる環境整備は慢性的な課題となっていますが、支援者の皆様からのご寄付や助成団体様からの助成金を活用させていただきました。ここに改めて感謝を申し上げます。

### Ⅲ 事業報告

#### 1. 図書館サービス

2021年度の貸出実績は、点字図書が借受延人員152人に対して196タイトル(484冊)、録音図書が借受延人員1,637人に対して2,603タイトル(3935巻)でした。録音図書の内訳は、テープ図書が197人に対して255タイトル(1,464巻)、CD図書が1,440人に対して2,348タイトル(2,471巻)でした。

またサピエ図書館に登録している当館蔵書の年間ダウンロード総数は、点字データが延べ利用者800人に対して338タイトル(1,207巻)、デイジーデータが延べ利用者16,150人に対して1,800タイトル(14,122時間47分)でした。

2021年度の生活相談件数は、総計27件でした。

その他、プライベートサービスとして、点字・録音の各種資料を利用者のニーズに応じて製作しました。図書の製作リクエストについてはそのほとんどを蔵書として受け入れています。

#### 2. 図書製作

2021年度の蔵書製作数は、点字図書が32タイトル(91冊)、録音図書(テープ図書)が26タイトル(179巻)、録音図書(CD図書)が215タイトル(215枚)でした。また会の活動を閉じられたボランティア団体のみこころの点字会様より35タイトル(92冊)の点字図書寄贈があり、これを蔵書に加えました。

なお、録音図書についてはこれまでデイジーCDとカセットテープの2種類を製作してきましたが、次年度以降はカセットテープ図書の製作を終了します。

#### 3. ボランティア育成

点訳ボランティアについては、点訳勉強会と校正勉強会を隔月で開催しました。当初は対面での勉強会を企画していましたが、社会情勢を鑑みZoomによるオンライン方式を採用しました。また新たな取り組みとして、当館所属の点訳・校正ボランティアを対象としたメーリングリストを開設しました。交流や情報交換の機会が増えることで活動へのモチベーションが高まり、メンバー

間で主体的に課題解決する意識の変化が生まれました。

音訳ボランティアについては、音訳勉強会を11回、音訳校正勉強会を10回開催しました。音訳ボランティアの勉強会についても、コロナ禍を機にZoomを活用しはじめ、関東圏以外にお住いのボランティアも勉強会に参加していただきやすくなり、オンライン参加者と来館者のハイブリッドによる開催が定着しました。その他、前年度に引き続き、CICインフォメーションセンター、江東音訳サービスなど外部団体との連携にも力を入れ、製作体制の強化ができました。また、テキストデイジーの製作体制強化に向け、協力者の確保に努めました。テキストデイジーについては次年度以降本格的な体制構築を行います。

#### 4. 地域貢献

地域貢献の一環として、中途失明された方で、当館へ直接ご来館いただける方を対象に、点字教室を開催しました。月2回、1コマ60分の単位で、レベルやニーズに合わせてマンツーマンで点字を学んでいます。講師も中途失明当事者であることから、個々によって異なる見えにくさについての相談に寄り添いながら居場所作りの役割をも担っています。

2021年度の総開催数は28回、受講延人員は39名となっています。

前年度に引き続き2021年度も、希望された方には電話を利用したリモート授業を行いました。また点字教室を受講されている方には別途スマートフォンの利用案内を行った方もおり、支援の幅を広げるきっかけとなりました。

なお、地域貢献につながる「江東区民まつり」は、2020年度に引き続き2021年度も中止になり残念ながら参加できませんでした。

#### 5. 啓発活動

2021年度はホームページの全面改修を行い、図書館の情報をより柔軟かつタイムリーに発信できるようになりました。

その一つの成果として、コロナ禍で前年度中止した「ロゴスの文化教室」を、2021年度はホームページ上でストリーミング配信し、期間中全国から延べ50名の方にお申し込みをいただきました。講師には2019年度と同様、批評家の若松英輔氏をお招きし、「弱さを受け容れるためにできること」というテーマでお話をいただきました。会場開催だと参加の難しかった遠方の方からもお申し込みをいただきました。

なお、「チャリティ映画会」については、コロナ禍の影響で本年度も開催することができませんでした。

## 6. 定期刊行物・出版

定期刊行物については、支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月で発行しました。「ロゴスのほん箱」についてはリニューアルしたホームページで点字データとデージーデータを公開し、自由にダウンロードできるように変更したほか、サピエ図書館へのデータ登録もはじめました。

有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」の点字版、当館オリジナル雑誌「あけのほし」点字・録音版をそれぞれ毎月発行しました。点字を読むことが難しい方に向けて「聖書と典礼」の音声版を発行するためのプロジェクトを立ち上げました。2023年度のサービス提供開始を目指して計画を進めてまいります。なお、「あけのほし」については、購読者数の減少と新事業の立ち上げを理由に、本年度末で発行を終了しました。

点字出版については、最新版の『点字技能検定試験の対策』、その他、視覚障害者関連団体の刊行物をはじめ、大阪大司教区発行の「大阪カトリック時報」の製作業務などを受託しました。

## 7. 外部との連携

2021年度は、全国視覚障害者情報提供施設協会全国大会、同団体主催サピエ研修会、視覚障害者選挙情報支援プロジェクト主催・衆院選選挙公報製作研修会、東京都主催・IT支援関係機関連絡会など、オンラインで開催された会議を通して外部団体との連携を図ったほか、10月に実施された衆議院選挙に向け、全国の各施設が加盟しているプロジェクトの一員として、点字版「選挙のおしらせ」の製作に職員総出で協力しました。

また職員が経験やスキルを活かし、外部委員や講師として広く貢献しました。主な派遣先は以下の通りです。

- ・日本点字委員会 委員
- ・全国視覚障害者情報提供施設協会 サービス委員
- ・同協会 同委員 著作権プロジェクト
- ・同協会 録音委員 音声デージーデータ登録団体資格審査プロジェクト
- ・関東地区点字図書館協議会 理事
- ・障害のあるがん患者のニーズに基づいた情報普及と医療者向け研修プログラムの開発に関する研究 メンバー

## 8. 職員の健康管理

健康診断を任意の時期や病院で受けられるよう柔軟に対処するほか、地域産

業保健センターを活用し、職員の健康管理にいっそう配慮する体制を整えました。

その結果、前年度に引き続き職員全員の健康診断受診を完了したほか、各職員いずれも年5日以上の有給休暇を取得しています。また、新型コロナウイルスのワクチン接種にあたっては特別休暇の制度を設けるなど、状況に応じて柔軟な制度運用を図りました。

重点施策でも挙げた業務改革の推進と在宅勤務の効果的な活用により、事業の継続と職員のワークライフバランスの充実を両立できました。次年度以降もこの流れを継続して参ります。

## 9. 法人業務・会議体

2021年度は理事会3回、監事による決算監査を1回、評議員選任・解任委員会を1回、評議員会1回を開催しました。いずれの会においてもオンラインでの出席に対応しました。

理事会での主な議題は2020年度事業報告並びに決算、2021年度補正予算、2022年度事業計画並びに予算、新評議員候補者の推薦などです。また、評議員会では理事会で審議された2020年度事業報告、決算、役員等報酬規程改定案などが審議され、全会一致で承認されました。

上記に加え、2021年度は役員・評議員の改選が行われました。

4月23日に開かれた評議員選任・解任委員会において、理事会より推薦のあった新評議員候補者9名が審議され、全て承認されました。また新役員候補については6月17日の定時評議員会で審議され、全て承認された後、新役員による理事会で、理事長並びに業務執行理事が選出されました。

新役員と新評議員の任期は各々2023年6月、2025年6月に開催する予定の定時評議員会終結の時までとなります。

## IV 統計データ

### 1. 貸出数

#### ① 資料の貸出

	点字図書		CD図書		テープ図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	枚数	タイトル数	巻数
総貸出数	196	484	2,348	2,471	255	1,464
個人への貸出	84	226	496	505	142	781
他館への貸出	59	127	649	763	79	505
他館より借受貸出	53	131	1,203	1,203	34	178

#### ② 分類別貸出数

	点字図書		CD図書		テープ図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	枚数	タイトル数	巻数
0 総記	1	2	23	23	1	8
1 哲学	124	288	566	665	110	623
2 歴史	1	3	154	154	17	124
3 社会科学	11	33	141	141	18	105
4 自然科学	4	12	82	106	3	18
5 技術	2	3	9	9	0	0
6 産業	1	6	12	12	1	5
7 芸術	3	7	206	206	2	3
8 言語	3	9	3	3	1	4
9 文学	35	101	1,092	1,092	91	533
J 児童図書	11	20	60	60	11	41
合計	196	484	2,348	2,471	255	1,464

### 2. サピエ利用状況（当館製作データ）

#### ① 点字データ ダウンロード数

338タイトル 1,207巻（延べ800人）

#### ② デイジーデータ ダウンロード数（テキストデイジー含む）

1,800タイトル 14,122時間47分（延べ16,150人）

#### ③ デイジーデータ 再生数

934タイトル 1,162時間27分（延べ3,692人）

### 3. 蔵書数

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
総蔵書数	2,436	8,037	5,144	28,494	3,945	4,017
自館製作	1,815	5,819	4,697	26,160	2,537	2,547
他館製作	4	29	10	59	2	4
寄贈	372	1,411	431	2,180	1,399	1,437
購入	245	778	6	95	7	29
今年度受入数合計	72	200	26	179	215	215
自館製作	32	91	26	179	215	215
他館製作	0	0	0	0	0	0
寄贈	40	109	0	0	0	0
購入	0	0	0	0	0	0
今年度除籍数	59	185	0	0	0	0

### 4. プライベートサービス

- ① 点訳 14件 2,383頁
- ② 点字打ち出し 20件 5,702頁
- ③ 点字データ コピーサービス 1件 1タイトル
- ④ 音訳 0件
- ⑤ デイジーデータ コピーサービス 37件 160タイトル